

地域農林経済学会ニュースレター No.7 (2016年6月30日発行)

★ Contents

- (1) 『農林業問題研究』 第52巻第2号 (第202号) 発刊案内 … (1)
 - ①目次 ②第52巻第2号「編集後記」
- (2) 2016年度地域農林経済学会近畿支部大会のご案内 … (2)
- (3) お知らせ … (3)

(1) 『農林業問題研究』第52巻第2号 (第202号) の発刊案内

『農林業問題研究』第52巻第2号が発刊されます。J-STAGE 上で閲覧ください。閲覧方法はこの項目の末尾を参照ください。

① 『農林業問題研究』第52巻・第2号 (第202号) : 目次

<研究論文>

子どもの夕食のとり方とその規定要因

— 2006年社会生活基本調査の匿名データを使用して—

金子治平

<個別報告論文>

JAにおける青果物営業活動の特徴と人材育成の課題

— PAC 分析によるアプローチ—

上田賢悦・清野誠喜

山菜栽培における技能の普及システムに関する一考察

— 真室川町農協タラノメ部会を事例として—

米澤大真・宮部和幸

有田地域におけるみかんの市場評価と産地のあり方

栗生和樹・浦出俊和・上甫木昭春

集落営農の効果に関する農業者の理解支援に関する考察

— 効果の試算結果に関するワークショップを通じて—

武藤幸雄

消費者によるネットスーパー利用

— 購入後の使用プロセスに注目して—

滝口沙也加・清野誠喜

農産物購買行動への「解釈レベル理論」の適用可能性

— イチゴを素材に web アンケート調査を用いて—

吉田晋一・大浦裕二・氏家清和

耕作放棄地を利用した太陽光発電の発電量推計と経済性評価

— 北海道の全耕作放棄地を対象とした試算—

伊藤寛幸・澤内大輔・山本康貴

造礁サンゴ保全に利用可能な政策手段と海洋保護区

新保輝幸

<書評>

山口 道利 著『家畜感染症の経済分析—損失軽減のあり方と補償制度』

飯國芳明

② 第52巻第2号 : 編集後記

2015年度の個別報告論文の査読が終盤に近づいてきました。学会誌のオンラインジャーナル化により国内外への発信力が高まり、個別報告論文についても学会誌掲載論文としての質の維持が求められているところです。そのため、当年度の個別報告論文については、当初より査読者の方々により厳正・的確な審査をお願いし、また、編集委員会でも時間を掛けて内容の確認・検討を行うなどの取り組みを行っています。その結果、最終的には例年よりもリジェクト率が高くなると思います。なお、取り組みの一環として2016年度の大会報告論文については上限を8頁としました。会員の皆様の積極的な大会報告と個別報告論文の

投稿を期待しています。(I)

★オンラインでの本誌の閲覧方法

- 1) 「農業問題研究 - J-Stage」で検索し、上の方に出てくる「農業問題研究 - J-Stage」をクリックしていただければ、直接本誌のページに飛びます。同じく Journal of Rural Problems で検索し、「Journal of Rural Problems - J-Stage」をクリックすれば、本誌の J-Stage 英語版サイトにアクセスできます。
- 2) 地域農林経済学会のホームページからは、「学会誌」→「農業問題研究 J-STAGE」に進み、さらに「農業問題研究」をクリックすると、J-Stage の本誌サイトに飛ぶことができます。
- 3) 「J-Stage」で検索し、J-STAGE のメインページにアクセスします。「誌名」で「農業問題研究」を検索していただければ、簡単に『農業問題研究』に辿り着きます。(J-STAGE は独立行政法人科学技術振興機構 (JST) が構築した「科学技術情報発信・流通総合システム」のサイトです)。

(2) 2016年度地域農林経済学会近畿支部大会のご案内

地域農林経済学会近畿支部代表 石田章(神戸大学)

下記の要領で、2016 年度地域農林経済学会近畿支部大会を開催いたします。今年度は、恒例の若手研究者による個別報告に加えて、新たな試みとして共通セッション「若手研究者からみた大学の地域連携—研究と地域連携との両立・節合を目指して—」をランチセミナーとして開催いたします(昼食は各自でご持参ください)。会員の皆様には、若手研究者の育成という観点からも積極的なご参加をお願い申し上げます。本支部大会は、非会員の方にも開放しておりますので、お誘いあわせてご来場下さい。皆様の多数のご参加をお待ちしております。

記

日時：**2016年7月23日(土)** 12:00～17:00(開場は11:30～) *昼食は各自でご持参ください

場所：神戸大学農学部 B 棟 101 号室(神戸市灘区六甲台町1-1)

(市バス 36 系統鶴甲団地行神大文理農学部前下車、徒歩3分)

参加費：無料(懇親会費は別途)

問合せ先：神戸大学農学研究科 石田章(TEL/FAX: 078-803-5844, E-mail: akira_ishida@people.kobe-u.ac.jp)

★会場設営の関係で、お手数ですが、参加ご希望の方は、7月15日(金)午後5時までに上記問合せ先までご連絡下さい。その際、懇親会への参加につきましてもお知らせ下さい。

【2016 年度地域農林経済学会近畿支部大会プログラム】

11:30～開場、受付

12:00～12:10 開会の挨拶(増田佳昭会長)

【共通セッション】 若手研究者からみた大学の地域連携

—研究と地域連携との両立・節合を目指して—

12:10～12:15 セッション開会の挨拶・趣旨説明(本田 恭子、岡山大学)

12:15～12:35 地域連携プログラムは若手を鍛える「登龍門」—3大学でのポスドク経験を中心に
報告者：富吉 満之(久留米大学)

12:35～12:55 ふくしま未来食・農教育プログラムでの3年間を振り返って
報告者：則藤 孝志(福島大学)

12:55～13:05 休憩

13:05～13:35 議論

13:35～13:40 セッション閉会の挨拶(川崎 訓昭、京都大学)

13:40～14:00 休憩

【個別報告】 ※研究報告は、報告 25 分・質疑 15 分

- 14 : 00 ~ 14 : 40 Constraints of Farm Size Enlargement in Rice Sector of Central Java: A Case Study
報告者 : Ernoiz Antriyandarti (Graduate School of Agriculture, Kyoto University)
座 長 : 多田 稔 (近畿大学)
- 14 : 40 ~ 15 : 20 滋賀県の集落における環境保全型農業実施の要因分析
—農地・水・環境保全向上対策の営農活動支援を対象に—
報告者 : 中島 彬 (京都大学大学院農学研究科)
座 長 : 中塚 雅也 (神戸大学)
- 15 : 20 ~ 15 : 30 休 憩
- 15 : 30 ~ 16 : 10 酒造好適米産地の維持・発展要因と課題
—兵庫みらい農協を事例として—
報告者 : 鈴木 淳 (神戸大学大学院農学研究科)
座 長 : 浦出 俊和 (大阪府立大学)
- 16 : 10 ~ 16 : 50 農地・水・環境保全向上対策の政策効果
—滋賀県「世代をつなぐ農村まるごと保全向上対策」を対象として—
報告者 : 小宮山 碧 (京都大学大学院農学研究科)
座 長 : 増田 清敬 (滋賀県立大学)

16 : 50 ~ 17 : 00 閉会の挨拶 (金子 治平 副会長)

終了後 : 懇親会 (希望者) ふるってご参加ください。

場所 : 未定。会費 : 3,500 円 (学生は 2,500 円)、学生報告者は無料

★参加人数把握のため、参加ご希望の方は、7/15 (金) 午後 5 時までに近畿支部大会事務局 (別紙問合せ先参照) までご連絡下さい。



(3) 学会からのお知らせ

①第 66 回地域農林経済学会大会は、2016 年 10 月 28 日 (金) から 10 月 30 日 (日) に、近畿大学経済学部 (東大阪キャンパス) にて開催されます。詳しくは同封の大会案内状をご覧ください。

②平成 28 年度学会賞・学会奨励賞および特別賞の推薦募集の締め切り日を、2016 年 7 月 8 日 (金) (必着) まで延長しております。会員の皆様には、改めて、積極的にご推薦下さるようお願いいたします。

★編集後記

ニュースレター第 7 号をお届けします。今回は、近畿支部大会 (神戸大学) の案内が中心ですが、大会案内状と会費請求書が同封されております。多忙な折、原稿をお寄せいただいた方に改めてお礼申し上げます。

なお、本ニュースレターに関するご意見、ご要望など、また掲載を希望される事柄などがございましたら、組織・広報担当常任理事 (足立芳宏 yadachi@kais.kyoto-u.ac.jp、または大石和男 oishi@adm.kais.kyoto-u.ac.jp) までお知らせ下さい。(A)

地域農林経済学会ニュースレター No.7
発行日 : 2016 年 6 月 30 日
発行者:地域農林経済学会常任理事会(組織・広報担当)